

目指す子ども像

- ・自ら考え(気付き・感じ)、判断し、行動する子ども
- ・自分や人を大切にする子ども

重視する視点

◇自分で考え(気付き・感じ)、判断し、行動する「主体的に学ぶ力」が育つ

◇自分の思いを表現し、他者の思いと折り合いをつけて人と「関わる力」が育つ

1. 子どもを「できる存在」として捉え、できる姿を通して「生きる力」を育む
2. 地域社会と協働して、社会に生きる子どもを育む
3. 自立と社会参加の実現に向けた個に応じた生活態度を育む

知 気付き・感じ・表現し・考え・判断し・行動する力

徳 より良く生きようとする力

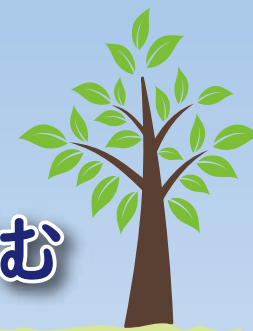
体 健康で安心・安全に過ごせる心身

- ・学びに向かうために、自分から、見る・聞く・感じる・気付く・やってみる・親しむ・楽しむ
- ・基礎的・基本的な知識・技能を基に、自分から取り組む
- ・学校での学びが社会とつながり、分かる喜びや学ぶ楽しさを実感し自分の力を発揮する
- ・自分から課題や疑問を見付け、思考力・判断力・表現力等の資質・能力を生かして解決しようとする
- ・やることが分かって、自主的・自発的に学習に取り組む
- ・ICT 機器を効果的に活用し、主体的に学ぶ
- ・性に関する学習や学校安全・防災学習等から、自分にできることや心身を守る方法を得る
- ・人権や道徳、自立活動等の学習から、自分がより良く生きるための方法を得る
- ・お互いの生き方や価値観の違いを認め合い、ともに尊重しながら協働して生活していこうとする
- ・自分の思いを自分なりの方法で他者に伝える
- ・食育や薬物等の保健教育から、自分の生活に生かせることを得る
- ・自分の健康を保持・増進しようとする



令和7年度 東総合支援学校 学校教育目標

人や自然 地域と関わり 主体的に学ぶ力を高め 社会に生きる力を育む



小学部の目標

健康で安全な生活を送る中で、身近な人と自然や社会に関心を持ち、主体的に関わる力をのばす

- 〈1〉安心安全な環境の中で、基本的な生活習慣を育む
- 〈2〉身近な自然や社会に目を向け、人・もの・ことに主体的に関わろうとする態度を養う
- 〈3〉地域とともに生きるための基盤となる力を培う

中学部の目標

豊かで充実した生活の実現を目指し、自ら関わり、意欲的に学ぶ姿勢を育む

- 〈1〉健康的で生き生きと毎日を過ごすために、基本的な生活習慣の確立を図る
- 〈2〉充実した生活を送るために、様々なことに自分から進んで取り組もうとする姿勢を育む
- 〈3〉より良い生活の実現に向けて、様々な人と触れ合い、社会の中で共に生きていく力を育む

高等部の目標

自ら目指すライフスタイルの実現に向け、人や地域と関わる中で、より自立的な社会参加の力を育む

- 〈1〉健康や生活の自己の課題に向き合い、基本的な生活習慣の確立と定着を図る
- 〈2〉将来の充実した生活のために、自ら考え行動する力を育む
- 〈3〉家庭や社会の中で自らの果たす役割を実感し、進んでしようとする意欲を高める
- 〈4〉卒業後の生活を具体的にイメージし、自己選択・自己決定し、新しい環境に適応する力を育む

支援部の目標

- ・教職員の専門性向上を目指すため、校内において学部と連携をとりながら有効な支援・助言を行う
- ・地域の総合育成支援教育の充実を図るため、「育」支援センターとして、相談支援・情報発信・啓発活動を行う

- 〈1〉教職員の専門性の向上のために、児童生徒のニーズに応じた校内支援を進める
- 〈2〉地域の総合育成支援教育の充実のために、多様な学びの場の整備・充実を図る

総務部の目標

学校運営を円滑に進めるために、総務部・指導部・支援部の各々が連携して、業務遂行できるように企画・運用面での調整を図る

- 〈1〉各々が連携して、業務を遂行できるように、安全で快適な学習環境・職場環境整備を推進する
- 〈2〉社会に開かれた学校づくりを推進していくために、各々が連携し、広く情報発信を行う
- 〈3〉教職員一人一人が、「働きやすさ」と「働きがい」を両立でき、教育の質を一層向上できるように、学校経営計画に基づいた予算の編成と効果的な執行を図る

「いのち」

～子どもの命を守り切る～

- ① 子どもが安心して生き生きと学べる環境を提供する
- ② 子どもの健康と安心安全を守るため、保健室との連携や医療的ケアの体制整備を促進する
- ③ 子どもが自身の心と体を守るように、防災や学校安全、性教育等の充実を図る
- ④ 教職員が危機管理意識を高く持ち、事故の未然防止や緊急、災害時の対応を適切に行える組織体制を構築する
- ⑤ 子どもの命と人権を守り切る使命を深く自覚し、組織的に対応する

「つながり」

～校種間連携・接続により
子どもを支える～

- ① 子どもが学校での学びを社会に向かう自身の進路へつなげ、見通しを持つことができる系統的な教育活動を行う
- ② 「個別の包括支援プラン」等を活用し、就学前や校種間、小・中・高等部の学部間での引継ぎを丁寧に行い、学びの連続性や継続性の連携を図る
- ③ 学部間や各関係機関との切れ目のない指導や支援を行い、卒業後の進路を見据えて、自立と社会参加につながる取組を組織的に推進する
- ④ 「育」支援センターとして、地域の総合育成支援教育の充実を図る

「ひろがり」

～カリキュラム・マネジメントの視点を持って
社会に開かれた教育課程を実現する～

- ① 学校・家庭・地域の願いを互いに共有し、学校運営協議会と連携をして、学校評価のもと、PDCA サイクルによるカリキュラムマネジメントを実施する
- ② 地域資源を活用し多様な経験を得て子どもたちの世界（視野や経験、意識）が広がる学びを積極的に取り入れた教育活動を推進する
- ③ 保護者や地域社会への情報発信の活発化を図り、社会に開かれた学校づくりを推進する

「よりそい」

～多様な子どもが誰一人
取り残されない教育を進める～

- ① 子どもの多様な能力や個性を伸ばせるよう、一人一人に丁寧に寄り添い、個に応じた適切な配慮や支援を充実する
- ② 子どもが安心して自分らしく生き生きと活動できるよう人権教育を推進する
- ③ 指導支援の専門性を高め、「個別の包括支援プラン」を活用した一人一人の教育的ニーズに応じた指導内容や指導方法の精選・創意工夫をする
- ④ 医療的ケアが必要な子をはじめ、一人一人のニーズに応じた指導や支援が行えるように、各関係機関と連携を図る

「つとめ」

～教職員の職責を自覚し、
研鑽することで教育の質を高める～

- ① 「教員の言動そのものが教育である」との認識のもと、子どもの人権を守り、一人一人を大切にする
- ② 子どもを「できる存在」として捉え、学習指導要領を基にした「個別の包括支援プラン」から授業を作り、主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を行い、授業の質を高める
- ③ 子どもが ICT を活用して主体的に学びに向かうために、教職員の ICT 活用指導力をはじめ資質・能力の向上を図る
- ④ 教職員が職責を深く認識し、社会的責任と教育公務員としての責務を常に自覚する
- ⑤ 教職員が支え合える心理的安全性の保たれた職場を創り、「働きやすさ」と「働きがい」を両立できる環境を構築し、教育の質をより一層向上させる

全教職員で進める学校づくり 5 つの柱